

里山だより

Vol.56

2015年4月



2014年度の活動報告

はしもと里山保全アクションチーム

〒648-0003 和歌山県橋本市隅田町山内 1017 中岡方

TEL 0736-36-1358

<http://homepage1.nifty.com/actsatoyama/>

4月20日（日） 芋谷での活動

参加者：佐藤、中谷、池田、辻野（午後）

K-3の田んぼの耕耘、ポンプを使っての水入れ、苗代の荒代掻きを行いました。

（佐藤）

4月20日（日） ヒノキの枝打ち指導、及び演習林整備作業

参加者：中岡、辻野、榎野、渡辺、澤田、中岡さんの高校生のお孫さん、井奥

見学者としてあやの台小学校の佐藤校長、榎先生、小佐田先生、作業指導者として松本さん

本日の作業は、木を育てる作業のひとつとして重要な「枝打ち作業」の研修と、以前に伐採したままになっている竹や木の整理や下草刈りの作業です。

榎野さんから野菜汁のご馳走もいただき、参加者全員で楽しい一日を過ごしました。

里山の自然を子供たちにも体験させてあげたいと、あやの台小学校の佐藤校長始め3名の先生方も来られました。

演習林内の自然観察や枝打ち作業の見学をされ、参加者との交流を深められました。

子供達にも、ふるさとの里山の思い出を作ってあげたいものです。

山は、4月に入り既に5日ほど作業をお願いしている松本さんのお陰で、大変明るく美くなりました。ふるさとの森の再生事業も、着実に進んでいます。

（中岡）

4月27日（日） 芋谷、臨時作業「いでし（水路掃除）」

参加者：佐藤、嶋村、大和田（夫妻）、榎野、澤田、大西さん（地元の方）

7時30分から作業を開始した。

川の水が極端に少ないので、芋谷川を岩と土嚢と砂利でせき止め、水路方向へ水流を変えた。

8時30分からメンバーの参加を得て、水路周辺の草刈りと水路の清掃を行った。

17時頃再度確認に行ったが、ビオトープ方向への水はまったく流入しておらず、苗代づくりに支障がある可能性もある。

とりあえず、ビオトープから苗代に水を引き入れ周囲に水が回るようにしておいたが、雨頼みの状態になっている。

（佐藤）

4月29日（火、昭和の日） 芋谷での臨時作業

参加者：14名

雨の中でしたが、苗代への「モミまき」を完了しました。

その後は、若者の力で、田起こしをやり始めました。GWいっぱいにかかると思います。

昼は、おにぎりと、インスタントラーメン、というものでしたが、参加の皆さん、珍しさもあって大変喜んで楽しんでくれました。

（佐藤）

5月8日(木) 芋谷での活動(「若者サポートステーション紀の川」の体験研修受け入れ)

参加者:若者たち4名、指導者2名、佐藤

植物観察とフィールド散策、トマトとキュウリの苗植え、ひまわりの種撒き。

その後、午後3時まで、K3の荒起こし、K4の田起こし、佐藤1名

(佐藤)

5月11日(日) 演習林での作業

参加者:澤田、辻野、中、中岡、榎野

・Cゾーンでの以前の活動で伐採した儘となっていた竹や丸太等の整理。

・Cゾーン丈夫の道路沿いの草刈り。

・昨年度七月から始まった国土緑化推進機構からの補助金での「演習林第二次拡張事業」を示す標識を、Cゾーン南東部入り口(駐車場の奥)に建立した。

思い返せば、丸太を製材所で挽いてもらってきた角材の形を整え、全面に白ペンキで下塗りし、四面に文字を入れ...等々、何ヶ月もかかって完成した標柱である。

土に埋まる部分を焚き火で焦がして、ゴロ石で支えて土を入れ、踏み固めた2mの記念ポールは、山の緑に映えてしっかりと立った。

参加者で記念写真を撮った。

・作業終了後、近くにある中岡家の竹藪で孟宗竹の筒堀りをした。

(中岡)

6月8日(日) 「AQUA Social Fes.」

3年目になるトヨタ「アクアソーシャルフェス」が180名の参加者(事務局調べ)というかつてない規模で開催されました。

主催は、地元「柱本地区」、共催アクションチームとして、過去2年間4回にわたって開催した実績を今年度の企画に足し合いました。

(佐藤)

6月12日(木) 地域の伝統文化を学ぶ(柏餅と粽づくり)

参加者:井奥、澤田、嶋村、高田、中、中岡、榎野さんのお嫁さんとお友達、山内桔梗会の皆さん(5名)

隅田町山内地区の幼稚園の教室で、お若い時から地域の伝統食の研究を続けてこられた寺尾先生に伝統の「柏餅」と「粽(ちまき)づくり」を教えていただきました。

5月5日(新暦の6月5日)の端午の節句の供え物は、里山の植物の葉で餅を包みます。

「粽」は、蒸した餅をヨシの葉で包み、棕櫚の葉を細かく切ったもので結び、更に枝についた儘のナラガシワの葉で包み、保存食としました。

「柏」は、蒸した餅に餡を入れ、再度蒸したものを冷まし、サルトリイバラやナラガシワの葉で包みます。男の子の節句のお祝いに送る「粽の伝統的な結び方」も教えていただきました。

地域の食文化は、里山に生育する植物が利用されていました。

(井奥)

6月15日(日) 芋谷での臨時活動

「里山学校(写真添付)」には、4歳から小学6年生までの15名の生徒たちと、保護者12名、スタッフとして特に参加してくれた若者3名、地元、大原「保全会」会長、中谷、佐藤の総勢33名、新聞記者1名の参加の元「第1回、里山学校」が開催されました。

各自に「生徒証」を授与し、資料を使って「田んぼの働き」を学び、里山学校の趣旨説明などを行いました。

プログラムは、希少種「ササユリ」の観察(斜面の上まで登って)と「保全」「の経過説明、「水田魚道」や生物が多様で豊富であることの説明、その後、子どもたちは伝統の「木杵」を使った田植えを開始、大人たちは「苗取り」と「苗振り」に当たりました。

各自の持参した弁当を食べてから、生き物採集と観察会も盛り上がりました。

子どもたちそれぞれが「ふり返しシート」を記入し、自己紹介をして、第1回を終了。

みんな、生き生きとして、大変楽しかったようです。

この日は、夕方5時から、中学生7名、アメリカの若者たち4名、小学生5名、大人4名の20人で、炭火を起こしバーベキュー。

暗くなるのを待って、ホタルの観察会を行いました。「ビオトープ」周辺からホタルの光が点滅し始め、フィールド全体のあちこちにホタルが飛び交い、数えられるだけで数十匹、おそらく100匹を超えるホタルが、水面近くや上空に「乱舞」する様子を観察できました。(佐藤)

6月19日(木) 演習林での臨時活動

参加者：井奥、中岡

井奥さんと二人で、今度の日曜日の活動に備えて、演習林の作業をしました(8時から12時)。

井奥さんは、東の市道沿い・上の入り口から池を巡ってぐるっと回ってくる山道・広場から南に下っていく山道等の草刈り、中岡は3月の松本さんによる下刈り後に猛烈に生えてきた竹切りをしました。

小径の刈り刃を付けた刈り払い機で、1本ずつ数えながら刈り倒しました(2人で約950本切り倒しましたが、北の端の南面斜面は残りました)。

急斜面での作業で、私は午後は寝てしまいました。(中岡)

6月22日(日)

参加者：重松先生、井奥、澤田、辻野、中岡

当日は、当会創立者で名誉顧問の重松先生が橋本に来られており、前日から続いている降雨の為作業は無理であったが、時間を遅らせて演習林に集まった。

演習林の今後の方向として、台風による倒壊から免れたB・Cゾーンのヒノキの扱いをどうするかについては、200年・300年先の良木をめざして、じっくりと育てていったらとの御助言を頂きました。

今は木材の需要は減少しているけれど、やがて大きな価値を持つ時が必ず来る。

落葉樹を中心とした演習林ではあるが、その中に伊勢神宮の背後にある森林のようにヒノキの大木が屹立している様子が想像され胸が躍る。

お土産として、福岡で養蜂されているニホンミツバチから採ったハチミツを頂戴しました。(中岡)

6月26日(木)

芋谷の棚田でお借りしている畑に植えた麦がよく実り、実がこぼれ落ちかけていました。鳥たちがかなり麦の穂をついばんでカラにしています。

天気予報では午後から雨の様子。今日中に刈らなくてはとの思いにかられて8時過ぎから、夫と二人で11時過ぎまでかかり、刈り取りました。ぬかるんだ所は、根から引けてきます。

ひまわりを植える田の整備をされていた佐藤さんが合流されて、刈ったばかりの麦を束ねてから、汗を拭いながら綺麗な芋谷川でおむすびで、ランチタイム！

午後から、脱穀作業に入りました。

粒の揃った立派な小麦は、中力粉になり美味しいおうどんになる運命！

正確には計測していませんが、収穫量は大変少なく4キロあるかな？といったところです。

芋谷の倉庫で熟成しています。

刈り取った後を見ると、種をまいたように弾けた小麦が落ちていました。

来年は麦播きしなくてもよいのでは！（私の家では昨年、こぼれ落ちた小麦の種で今年も収穫できましたよ！）

(嶋村洋子)

7月8日

本日里山のビオトープの整理、草刈などの作業に行きました。

早朝より佐藤さんが草刈をされ、大原区長さんは、ひまわりの播種作業にと汗を噴出しながら作業されてきました。

芋谷は、皆様の畦が、美しく草が刈られて、里山景観が進んでいます。

モミ種浸水、苗代作り、苗取り、田植えと進みました。

本日驚いたことに、写真のような草山を見て、皆様にUPして、はしもと里山保全アクションチームのフィールドを見ていただきたいと思います。

(中谷)

7月13日(金)

今日の里山は、午前中雨が降りました。

佐藤さん、井奥さん、尾浦さん、中谷の4人でフィールドの草刈、整理等行いました。

草の繁茂した田んぼは、井奥さん一人で、草を刈られました。

尾浦さんが大活躍で、石垣まで、綺麗にしてくださいました。

佐藤さんは、これまで、一人で、水田周辺や、ビオトープの整理、草刈、水路の掃除と、孤軍奮闘されました。

小屋の手前は、女性用の軽い草刈り機持参で、中谷が草を刈らせていただきました。

尾浦さんの強力な助けを戴いて、すっかり美しい環境になりました。

(中谷八重子)

8月24日(日)

夏休み最後のイベントを芋谷で開催しました。

芋谷の小川や田んぼ、水路、ビオトープの全体を使った『生き物の採集、観察会』

当日の参加者は、里山学校の子供たち10名、保護者サポーター7名、海辺の教室(和歌山市)25名、高校生、大学生のボランティア20名、企画スタッフ6名、観察ガイド4名、ミニコンサート演奏者6名、地元柱本地区25名、、、総勢100名を超える参加者が集うイベントになりました。

私たちが保全しているフィールドは、丁寧に管理されていることもあって、生物相が濃く、多様性が維持されています。参加者はたも網や虫網を手し、歓声を上げてカエルやトンボ、メダカやイモリ、よしのぼり、サワガニ、カワムツなどを手にとって観察しました。

観察ガイドには、井奥さんを始め、県からの指導員、小出さん夫妻、宇田さんが当たっていただき、たいへん実り多いものになりました。

フィナーレは、アメリカ人の19歳のバイオリニストの演奏、別所さん夫妻の息のあったオカリナ演奏、とみんなの合唱(ふるさと)。

雨に当たることもなく、たいへんゆったりと楽しい一日になりました。(佐藤)

8月28日(金)

芋谷の米も色づき始め、だいぶ涼しくなりました。

今日は、イノシシから、米を守るための電気柵と網を設置しました。

地元、保全会のメンバーとともに植えたヒマワリ1万本が咲き始めました。

ぜひ、景観を見に来てください。(佐藤)

9月21日(日) 演習林作業

参加者：梅谷、澤田、嶋村夫妻、辻野、中岡、槇野、渡邊

・Aゾーン上部の竹林部分の下刈り作業(全面に繁茂したコシダ、成長しすぎた樹木、隣の山から進入した雌竹など)。

伐採した木は隣接の山との境界部分の溝に集める。

松林の林床部はキレイに刈り上げられ、翌月予定の「松茸菌」の移植準備は整った。

・Cゾーン上部の市道との境界部分(低木類を植樹したところ)の除草・下刈り作業(上記作業と並行しつつ)。

・今年は高温・晴天つづきで、春に植菌したホダ木はカラカラ。

昨年は沢山収穫できた以前からのホダ木群にも、椎茸の出てくる気配は皆無。(中岡)

9月28日(日)

快晴の芋谷、棚田で、「里山学校」の子どもたちによる稲刈り体験が開催されました。

参加者は31名(子ども11名、サポーター(親)15名、スタッフ5名(うち地元指導者3名)、大学生2名)

それぞれが手鎌を持ち、慣れない手つきで初めての稲刈りを体験。

雑草（ヒエ）が多く、その中から稲を見つけて刈るような場所も多く大変な作業だったと思います。

稲の列がしっかりできている田んぼは「機械（バインダー）」を使って稲刈り。

地元の3名の方が、機械の調整から指導までやって頂きました。

後半は、やる気になってきた5年6年の子たちが、バインダーを操作して、見事にやり切りました。

昼食は、前日から準備していただいた、おいしいカレーライス。おかわりが弾みました。

さらに、食後には、若者によるパフォーマンスがあり、たいへん盛り上がりました。

ジャグリングやマジックなど、子どもたちとの交歓の様子も、面白かったです。

（佐藤）

10月1日（水） 芋谷での臨時作業

芋谷の道拡張工事がさつま芋畑まで進み、一部さつま芋の掘り起こしが必要と連絡を受け、嶋村さんご夫妻と行ってきました。

工事にかかる部分は一畝程度で、その部分のサツマイモを掘ると、ウイナー程度の大きさでした。

サツマイモ畑の中ほどの畝は、葉も茂り、掘るとおしぼり位になっていました。

ただ、焼き芋には到底無理な太さでした。

（槇野）

10月12日（日） 演習林での臨時作業

参加者：梅谷、澤田、中岡、井奥（後半）

8：00すぎ～10：00、（その後、井奥・中岡 ～12：00頃）

演習林（赤松林部分）に「マツタケ菌」を移植しました。

早朝7：00前 松本さんが昨日採取した自家のマツタケ山（高野町筒香付近）の土を中岡宅に届けて下さる。

約25センチ×15センチ・厚さ3～4センチの、松茸菌が宿っている（はずの）赤松の細根を含んだマツタケ山の表土の塊が8枚も！。

松の根元から1～2mの場所で、移植候補地を決める。

堆積した落ち葉等を掻き取り、一面に生えたコシダの根を剥がし取ると、幾本もの赤松の細根が伸びている腐葉土層が現れる。その凹部に合わせて松本さん家の山土を乗せ、押さえつけてから元の落ち葉を被せる...という作業を3人で8ヶ所こしらえ、山の外縁部に生えているシノダケを切ってきて目印とした。

来年の秋が待たれる。

今回のやり方とは別に、この冬には少し太め（5～7ミリくらい）の根を掘り出して断根し、それに土を被せて毛根を出させた所に、次回は傘の開いた「本物の」マツタケを被せて菌を落として植菌という取り組みを、来秋にはもう一度試みたい。

植菌が終わって一旦解散した後、朝から小学生への自然観察会での指導を終えた井奥さんが来てくださり、今朝からの作業を説明したり、種々の情報交換等。

当地には自生していなかった「アオモジ」の幼木が「トトロの木」の下の山道脇に自生しているのを確認して下さった。

演習林の入り口付近に、イノシシが踏み荒らした箇所がいくつも出来ていた。

（中岡）

10月19日(日) AQUA Social Fes.

今年度は、地元主催、アクションチームが支援するという構成で行われました。

アクションチームからは、辻野代表、嶋村さんがスタッフとして参加。

今回の内容は、「稲刈り」、「稲運びとハザ架け」、「脱穀作業」、そして水路にいる「メダカの救出作戦」。

地元の方が「指導者」として、作業指導にあたり、秋の好天の中、全てが順調に進みました。

メダカ救出作戦の指導は「里山学校」の中学生4名が当たりました。

参加者も、稲刈りからハザ架け、脱穀までの「収穫体験」に参加できたことが楽しかったようです。

参加者は総勢160名、地元の子どもたちやお揃いの帽子をかぶった「里山学校」20名が参加しました。

アクア第1回目で全体の半分の「田植え」を行い、残りは「里山学校」の子どもたちで田植えをし、その後草取りなどで管理してきたものです。

「里山学校」の子どもたちは、自分たちのフィールドで、率先して作業に当たりました。

なかなかの「雄姿」を見せてくれました。

農薬を使わず、メダカやイモリやカエルがたくさんいる里山での体験は、親子連れの参加者にはこの上ない楽しみです。

昼食のカレーライスを何度もおかわりをし、午後は「サプライズイベント」を行いました。

橋本市の平木市長が祝辞を述べられ、その後、若者5人グループによる「大道芸＝ジャグリング」、そして、オカリナの演奏と、みんなでの合唱。

(佐藤)

10月26日(日) 『ナチュラルブレイク』

ナチュラルブレイクは今年度で23回目になりましたが、第1回目からアクションチームが「核」となっている役割を行ってきました。

これまで、市民や公民館実行委員・アクションメンバーが力を合わせて、道の整備や道路沿いの手すり（現在は朽ちて撤去）、ビオトープの小屋の建設、看板設置、さらに、「メダカトンボ池」の観察ステップ建設、ゴムボートを浮かべての池の清掃なども行いました。

焼き芋も、恒例の「出店活動」であり、期待もされています。

シュロの葉のバッタづくりや工作教室も、「多くの市民に自然の大切さと素晴らしさを伝える機会」として実行してきました。

ビオトープツアーや生きもの観察会も、アクションチームとして行っています。

何を言いたいかというと、これまで、アクションの会活動として諸先輩方が労を惜しまずやり続けてきた「火」を消すことなく、企画の趣旨に賛同しできる限りの努力を行うことにこそ意義があると考えます。

今年度も、間違いなくおいしい焼き芋を皆さんに提供できたことは、ほんとうによかったと思います。

今年度の売上は7,610円でした。

(佐藤)

11月16日(日) 演習林作業(林床へのドングリ直接播種)

参加者：井奥、澤田、嶋村夫妻、辻野、中岡、槇野

今秋に落ちたドングリを、嶋村さんがクヌギ及びアラカシをそれぞれ約300個、コジイ他も50個以上、辻野さんがコナラ約500個を、それぞれ御宅の近所で拾い集めてくださいました。(しゃがんでの大変な作業だったと思います。)

落葉樹を主体ということで、演習林に播種するのは、クヌギとコナラに限定しました。

播種するのは、荒れ果てた状態をなんとか整理した(北半分は千数百本のハチク、孟宗竹を皆伐し、その後も笹を倒し続けている。南半分は台風被害によってその殆どが倒壊・立ち枯れになっていたのを専門家の手も借りて整理したもの)ものの、その次の段階に手を付けていないCゾーンです。

ここに苗木を植樹する構想は以前からあるものの、その前に播種によって木を育ててみようという試みです。

もっとも成功率が高いと思われる方法で今回はドングリを播きました。

将来成木となっていく状態を想定して播種場所を決め、その場所の笹やツル等の根を除去した穴に山土(赤土)を入れ、その中に尖った方を下向きにしてドングリを埋め、その上から一箇所割れ目をいれた竹筒を立てるという方法を取った。

竹筒は節の無い、直径8cmから10cm、長さ25cm前後の孟宗竹で、これによってドングリや新芽が鼠や害虫による被害から守られることを目指しています。(幼木が安定した段階で、竹筒のあと一箇所を縦にわって取り外す。)

(中岡)

11月22日(土)、24日(月) ドングリ播種(苗木用)

- ・11月16日の林床への直播を補う意味で、残ったドングリの一部を苗木として育てる試みを行った。
- ・11月22日(土)に、クヌギ・コナラ各40個をプランターに播き、切り藁を被せ、木陰に設置。
- ・11月24日(月)午前中、嶋村さんご夫妻が来宅下さり、畑に畝を切って各100個余りを播種し、土を約3cm被せてその上を切り藁で覆ってくださった。
- ・それでも、クヌギ、コナラ共200個くらいが残ったので、再度演習林を訪れ、全部をCゾーン内にばらまきました。

(中岡)

12月7日(火) ウラジロ採りと注連縄づくり

参加者：澤田、嶋村、中岡

まず8時半から9時半まで演習林で作業を行いました。

演習林のBゾーン及びCゾーン一部のウラジロが今年は大変良質のものとなった。

従来は二股に分かれた葉の長さが40cmから60cmもある大振りのものであったが、今年はその殆どが30cm以下で、中には20cm以下の小振りのものに育った。

これは市場では歓迎され、高い値も付くという。

良質のウラジロが育った理由としては、例年は放置した儘で二段目、三段目に葉が付いたり下刈りを春までにすませた為に思い切り成長してしまうところを、今年六月に下刈りを実施したからではないかと考えられる。

高値で売れるなら市場に出して会の収入に...と考えられたが、最終した後小売りが出来るように五枚なり七枚を袋に入れて封をし、値札を付けて販売店に持って行くという作業が大変であることが判明し、

それは断念せざるを得なかった。

この日は自分達で使う分と、黒いビニール袋に入れて密閉すれば一ヶ月後にはどうなるか実験する為の100枚余りを採るだけに留めた。(密閉袋に入れた分は、年が明けて、とんど焼の時期になっても新鮮な儘であった。)

その後、クラブハウスに移動し、10時頃からお昼過ぎまで、採集したばかりのウラジロを付ける為の縄づくりを行った。

今年刈り取って天日干しをしたアサムラサキ(黒米、もち米)の藁のわらしべを除いて縄を編む作業に殆どの時間を費やした。

地方や各家庭によって様々な編み方やウラジロの取り付け方があり、嶋村家と中岡家では大きく異なることが分かった。

嶋村さんは縊りのかかった葉を三本合わせて更に太い縄に仕上げるという手の込んだ縫い方をされる。他方、中岡宅では二本の縄を編みながら、一本、五本、三本の藁を垂として入れていくという単純なもので、時間もあまりかからない。

これは、玄関一箇所を豪華に飾る場合と、本屋・納屋などの各入り口、神棚、仏壇、緯度、農業機械、自動車などいろんなところに注連縄を飾る農家(中岡家では20箇所以上)の場合との違いによるものといえよう。

参加の皆さんは、それぞれの注連縄を編んで、ウラジロと共に持ち帰られました。(中岡)

12月27日(火) お餅つき

参加者：漆畑夫妻、小林、澤田、信谷さん、槇野さん御家族、真壁さん、山岸さん、梅谷

紀見北地区公民館をお借りし、毎年恒例のお餅つきを行いました。

橋本在住の人たちが朝早くから準備してくださったお陰で手際よく作業は進み、美味しいお餅のある良いお正月を迎えることができました。

1月11日(日) 芋谷での作業

とても寒い朝になりましたが、第12回目になる「里山学校」を開催しました。

芋谷の田んぼの整備活動で、稲わらや伐採した木の片づけ(燃やし)作業、と「薪」を薪置き場に運搬して積み重ねる作業。

新たに、薪置き場を単管で組み立て、そこへ運搬し、積みました(乾燥させて薪にします)。

昼ごはんは持参したおにぎりと、鶏肉の網焼きをして、みんなで食べました。

参加者は、15名(アクションチーム4名、初参加4名、子ども6名)

終了は午後4時になりましたが、広大な斜面もきれいになり、少しずつ田んぼも整備され、これから春になるのが楽しみです。(佐藤)

1月18日(日) 芋谷での作業

第13回目の「里山学校」を開催しました。

朝は寒かったのですが、天気も良く、みんながそれぞれ活躍してくれました。
特に、お父さんたちの活躍で「水田魚道」が復活。単管で魚道を支え、勾配を17度以下に設置するという作業も、とてもスムーズなチームワークで完成させました。

水路の掘削には、子どもたちも参加。

草燃やし作業や薪の運搬など、子どもたちが自発的に実行してくれました。

なんと、ビオトープで船に乗るとい遊びを発見。ずいぶん盛り上がり、終了は4時に。

参加者20名（子ども9名、保護者6名、大人3名、地元参加2名）（佐藤）

2月24日（火） 演習林作業（第二段マツタケの菌植の準備、及び下刈り）

参加者：井奥、中岡

・来年度（今秋）に挑戦を予定しているマツタケ菌移植の下準備として、Aゾーン上部の赤松林の林床を浅く掘って鉛筆くらいの根を掘り出し、切断して埋め戻し、目印の杖を立てた。

切断部分から毛根が発生して菌が活着しやすくなるのを期待しての作業である。

約15箇所を実施した。

・その後、Cゾーンで残っている部分の下刈りを行った。ガソリントank満タン分の燃料を使用した、充分には捗らなかった。（中岡）

3月15日（日） 芋谷での作業

地元の方たちの指導によって、じゃが芋を植え付け（約5kg）。芽になる部分を調べて半分に切るとい作業から始めました。

その後は、一般参加者と合流して、里山ウオーキング。

明治時代に掘られたという手掘りトンネル（中に入りました）、温泉の跡地（当時の写真を見ながら説明がありました）、

めいめい手にかごを持ち、道すがらの野草を摘みながら戻りました。

フキノトウ、つくし、クレソン、ヨモギ、アザミなどを摘み、いよいよ昼ごはん。

食事の差し入れをたくさんいただき、食べきれないくらいでした。

釜と薪で炊いた新米ごはん、イノシシ肉や鶏肉の入った汁物、イノシシ肉のカレー、天ぷら、大根の漬物やなます、

干し柿・・・

参加者は、里山学校の子どもたちが8名、和歌山市から参加の中学生と高校生、大学生、保護者たち4名、一般参加者5名（マジシャンも参加）、地元から7名、スタッフ3名・・・合計30名（佐藤）

3月22日（日） 芋谷の小屋の解体作業

参加者：井奥、梅谷、澤田、嶋村夫妻、中岡、榎野、木村さんと大西さん。

朝から小屋の解体作業に取りかかりました。

まずは、小屋の「中身」を全部取りだし。

プラスチックのケース、幾つもの長靴、なんやかんやらの箱やら、部品やら ... 次々ブルーシートの上に並べていくと、よくあれだけの物が入っていたもんだと関心することしきり。

不要な物を分別し、燃やせるものはガンガン火にくべながら、いよいよ小屋の解体作業に取りかかりました。

当会男性陣（僕を除く）の凄いこと、凄いこと。

軽々と脚立を上り下りしながら、鮮やかに道具を使い、太い柱や天井をカバーする板を次々に解体していきます。

地上の女性陣のチームワークも素晴らしく、トタン屋根に細かく打ち付けられた釘をどンドン外し、トタン板を一枚ずつ分別し整理しておられました。

そして、特筆すべきは「ゲスト」のお二人のまさに八面六臂の大活躍。

木村さんのチェーンソーさばきに、大西さんの大工仕事。

この作業の為、参加して下さって本当に助かりました。

一方、何気ない小屋の、トタン一枚剥がしてみれば、その内部には縦横に構成され、幾重にも組重ねられた木の柱や板。十余年前にこれを組み立てられた先輩方の偉業と心意気をしのぶことができました。

お昼は槇野さんによる、ぶりのアラを使ったスープ。

そして、嶋村さんお手製の紫イモのジャムをたっぷり乗せた、これまた自家製パン。

ワイワイと楽しい話し声と、かまどの煙と、道具の音と美味しい食事。

17時前までみっちりやった作業（僕を除く）はなかなかしんどかったのですが、丁度10年前に初めて参加させてもらった頃の印象が蘇ってきたような気がしました。

16時頃には西側の二つの小屋の解体はほぼ完了。ゴミの分別や片付けなど全て終わったのは17時前でした。

尚、この日の活動終了後、翌日に大西さんが単管で組み立てた「テント」を解体してくださいました。たったお一人で。本当に有り難う御座いました。

3月29日（日） 芋谷の小屋の解体作業

参加者：梅谷、澤田、嶋村勝、辻野、中岡、槇野、木村さんと大西さん。

雨のなか、パーゴラの移動を行いました。

土台のコンクリートと四隅の柱を繋ぐボルトを外し、地面から自由になったパーゴラをレール状の木材に乗せ、さらにそのレールの下に置いた単管を転がす仕組みで、えっちらおっちら、移動先まで動かしていきました。

世界史の教科書に「ピラミッドづくりに従事する奴隷」などと題して、「奴隷」の人々がコロに乗せられた巨石をみんなで押したり引っ張ったりしているイラストがあったと思いますが、まさにあれです。

（ただし、最近の研究によると、あれは「強制労働」ではなく、失業対策を含む一種の「公共事業」だったとの説が有力になっている、と聞いたこともあります。）

どうにかこうにか二つのパーゴラの移動させ、ゴミ・廃材の片付けもやって、ますます降りしきる雨の中芋谷を後にしました。